

被災地訪問旅行

清水 勝

二月に仲間と熱海に行った。温泉・梅園が目的ではない。二年半前に熱海の伊豆山で大規模な土石流による災害が発生し、二十八名が亡くなり、家屋が流される大きな被害が出た。熱海市被災者支援室を訪ね、復興状況等のお話を伺った。生活再建への各種の助成により132世帯のうち84世帯が既に家の新築を済ませているとのこと。こうした被災地訪問は別表の通り、2011年3月に発生した東日本大震災で、南三陸町を訪問し、語り部バスによる現地訪問をしたのがきっかけとなった。東日本大震災関係では、原発被害で全域が避難指示となった浪江町を訪ね、厳しい復興への取り組みを実感してきた。三陸に比べ余り知られていない千葉県北部の旭市にも行った。ここにも大きな津波が襲い、死者・行方不明者が十六名の被害となった。

東日本大震災の翌日に発生した長野県北部地震の被害地となった栄村を訪ねた。二メートル以上の雪に覆われた小さな村(人口2330人)を震度六強の地震が襲った。

住民の八割が避難生活を強いられたが、二年後には住宅・道路の九割が復旧した。それだけではない。震災復興祈念館『絆』や「福幸そは」を商品化する元気に驚かされた。能登もそうあって欲しい。

台風被害では、伊豆大島が豪雨により三原山の火山灰の泥流が発生し、死者三十九名の被害。観光地であるだけに復興には『椿まつり』、ジオパークに訪れることが一番のお見舞いになると感じた。

地震と共に火山爆発による被害も度々起こっている。訪ねたのは御嶽山の噴火により、頂上付近にいた六十三名の登山客が犠牲になった麓の王滝村。人口842人の村役場のお話では、登山者と「おんたけスキー場」へのお客の減少が悩みだという。

そして本白根山の突然の噴火により、「草津国際スキー場」にいた人が噴石で一名が死亡した草津町を訪ねた。大観光地であり風評被害を心配していた。

被災地訪問旅行で行く所がないという状況が我らの願いだ。

(801字)

《被災地訪問旅行》 ←

訪問日	災害名	発生日	訪問被災地
2024. 2	熱海市伊豆山土石流	2021.7.3	熱海市
	<コロナ禍で中断>		
2019.11	東日本大震災(千葉県)	2011.3.11	千葉県旭市
2018.11	本白根山噴火	2018.1.13	草津町
2017.10	長野県北部地震	2011.3.12	長野県栄村
2016.10	東日本大地震 原発事故	2011.3.11	福島県浪江町
2015.10	御嶽山噴火	2014.9.27	長野県大滝村
2014.12	台風26号土砂災害	2013.10.16	東京都大島町
2013.11	東日本大震災	2011.3.11	宮城県南三陸町